

重点研究プロジェクト（Ⅱ期）知財公開用情報

<p>発明の名称</p>	<p>対話型情報提示システムおよび対話型情報提供方法</p>
<p>登録(出願)日 登録(出願)番号</p>	<p>出願日:平成 28(2016)年 12 月 2 日 特願 2016-234723</p>
<p>要約</p>	<p>【課題】 従来技術は、ニュース等の情報を正確に流暢に伝えることを主眼としており、「情報を伝えるシステム」と「その内容を聞くユーザ」との関わりがなで、聞き手であるユーザはその発話の生成や伝達に参加する余地はなく、一方的で受動的なものとなりがちであった。そのため会話に対する参加態度(engagement)は低くなりがちであり、そこで伝えられる情報に対する理解は浅いものとなりやすい傾向にあった。また、ユーザの関心に関係なく、一方的な発話により情報が伝えられるために、ユーザに対してやさしさや丁寧さを欠くものであった。</p> <p>【解決手段】</p> <p>①ユーザの注意がシステムから外れていると判断した場合には、ターン開始要素の「あのね」「えーとね」を新たに添えたり、文節ごとの発話をくりかす(restart)などして、ユーザの関心をシステムの発話に向けさせる機構を用意した。</p> <p>②不完結な発話を順次提示することで、ユーザからは、その抜け落ちた情報に対する問い掛けを引き出すことで、対話状態を生み出す機構を用意した。</p> <p>③聞き手であるユーザに情報を提示する際に、大切なキーワードを忘却したようにふるまい、聞き手からのアシストを引き出すなどのことを実現する機構を用意した。</p>
<p>特徴/ セールスポイント</p>	<p>(1) 聞き手であるユーザの積極的な参加や関心を引き出しながら、その協働的、対話的な環境の中で、結果的に豊かな情報をユーザに伝えることができる。</p> <p>(2) このシステムとの関わりにおいて、ユーザからの積極的な関心やアシストを引き出すことができる。あるいは、やさしさや工夫を引きだすなかで、ユーザの思考の活性化や学びなどを引き出すことができる。そのためインタラクティブなロボットを用いた高齢者のケアや子供の学習システムなどに応用できる。</p> <p>(3) 従来のテキストを機械的に音声合成する発話生成システム、情報提示システムは、一般にユーザーから「設計的な構え」を引き出しやすい。その発話に意図や意思、気持ちを感じにくいものであった。本発明によって、意思や気持ちを伴ったような、生き生きとした発話を生み出すことができる。</p>
<p>主な応用分野</p>	<p>本発明は、従来の合成音声システムの応用分野である、ニュースやメールの読み上げソフトウェアの機能として応用される。あるいは、インタラクティブなコミュニケーションロボット、スマートスピーカなどの発話機能として応用される。</p> <p>特に、高齢者や子供などの能動的な参加を引き出すことができることから、インタラクティブなロボットを用いた高齢者のケアや子供の学習システムなどへの応用が期待される。</p>
<p>開発状況</p>	<p>本発明内容を反映させた基本ソフトウェアをすでに開発しており、様々な応用分野に合わせての拡張も可能な状態にある。</p>

<p>参考する写真等</p>	<p>本発明内容を応用したコミュニケーションロボット〈Muu〉</p> 
<p>特許権者(出願人)</p>	<p>国立大学法人 豊橋技術科学大学</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>機関名：豊橋技術科学大学 部署：情報・知能工学系 担当者名：岡田美智男 電話：0532-44-6886 e-mail :okada@tut.jp</p>